

食育の推進に関する施策の進捗状況

(令和元年度実績及び課題等)

令和2年8月27日

I 富山の「食」に着目した食育の推進

1 食育県民運動の展開

	H30 実績	R1 実績	R2 計画
①とやま食育推進フォーラムの開催	1回	1回	1回

【取組実績】

- 県民を対象に食育活動を通じ、健全な食生活への理解を深めていただくため、「とやま食育推進フォーラム」を開催し、約 100 名が参加した。

日 時：令和元年 11 月 14 日（木） 14:00～15:30
 場 所：サンシップとやま
 講 演：～子どもたちの命をつなぐために～
 「家族の健康は食卓から」 遺伝子組み換えと食の安全
 日本の種子を守る会アドバイザー 印 鑰 智哉 氏



主催者あいさつ



講演（印 鑰 智哉 氏）

【課題及び対応】

- 食育の推進・実践に関する普及啓発を図るため、食育推進フォーラムを引き続き開催する。

	H30 実績	R1 実績	R2 計画
②富山型食生活モデルメニューの 確立・普及	インターネットやイベント等でのPR	インターネットやイベント等でのPR	インターネットやイベント等でのPR

【取組実績】

- 旬の地場産食材や伝統的な食文化を活かした栄養バランスの良い「富山型食生活」や希薄になりつつある郷土料理等の食文化の伝承を図るため、食育リーダー等による普及のほか、「越中とやま食の王国フェスタ 2019～秋の陣～」で、多くの県民への普及を図った。



イベントによる富山型食生活の普及・啓発
 「越中とやま食の王国フェスタ 2019～秋の陣～」

【課題及び対応】

- 引き続き、家族参加の料理教室の開催、食育リーダーによる講習会の開催のほか、四季折々の地場産食材を使った栄養バランスの良い「富山型食生活」の普及・PR 活動を展開する。

		H30実績	R1実績	R2計画
③富山型食生活普及に向けた食育推進イベントの開催	開催回数	2回	2回	1回

【取組実績】

- とやまグランドプラザで野菜摂取の促進と生活習慣病予防を目的として子どもから高齢者までを対象に食育推進イベントを開催し、食事診断・栄養指導、健全な食生活の啓発等を行った。
- 県民一人ひとりが食育に関心を持ち、食育の実践につなげることを目的に「越中とやま食の王国フェスタ 2019～秋の陣～」イベントでの栄養バランスのとれた富山型食生活等の普及・啓発や栄養改善指導を行った。



富山型食生活の普及・啓発
(野菜を食べようキャンペーン)

【課題及び対応】

- 富山型食生活の普及には、家庭や職場、地域など様々な場所において、取組みを推進する必要がある。
※ R2年度は新型コロナウイルス感染拡大防止対策を図りながら実施予定（一部中止）。

		H30実績	R1実績	R2計画
④「栄養の日・栄養週間」の普及	普及啓発の推進	普及啓発の推進	普及啓発の推進	普及啓発の推進

【取組実績】

- 「栄養の日（8月4日）」、「栄養週間（8月1日～7日）」を中心に、エビデンスに基づいた正しい情報の発信により、適切な食生活の実現することを目的に、県民に対して普及啓発を行った。
- 令和元年度は、栄養の日・栄養週間の周知、県ウォーキングイベントにおける栄養相談を実施した。また、本県で特に課題となっているメタボリックシンドロームの予防の普及啓発のため、リーフレットの作成・配布と、スーパーマーケットのお惣菜売り場におけるPOPの掲示を行った。（富山県栄養士会に委託）

【課題及び対応】

- 「栄養の日・栄養週間」を契機に、自身の食生活について振り返るきっかけを提供し、望ましい食習慣の確立を推進する。また、令和2年度は災害時の食の備えに関する普及啓発に取り組む。



県ウォーキングイベントにおける
栄養相談の様子



メタボ予防普及啓発の
リーフレット



スーパーに掲示したPOP

		H30実績	R1実績	R2計画
⑤地域食育推進体制強化事業の推進				
ア) 食育推進連絡会の開催		3回	3回	4回程度
イ) 食育指導関連教材の整備・貸与回数		90回 (教材数 311)	44回 (教材数 301)	100回程度
ウ) 食育に関する出前イベントの開催	実施回数	5回	6回	5回
	参加人数	298人	681人	300人程度

【取組実績】

- 各厚生センターが中心となり、食にかかわる関係機関、団体等と連携し食育に関する共通理解を深めるなど、地域における食育推進体制の強化充実を図った。

具体的な事業内容

- ア) 食育推進連絡会の開催
- イ) 食育指導関連教材（フードモデル、紙芝居、パネル等）の整備と貸与
- ウ) 学校、企業、公民館等での食育に関する出前イベントの開催



食育研修会の開催



出前イベントでの食育指導



【課題及び対応】

- 食育推進連絡会を中心に地域での連携をさらに推進するとともに、スーパーマーケット、飲食店、事業所等と連携した出前イベントの開催や、食育指導関連教材の紹介により、食育推進体制を強化する。

※ R2年度は新型コロナウイルス感染拡大防止対策を図りながら実施予定。

		H30実績	R1実績	R2計画
⑥食育リーダーの養成・派遣	登録者数	47人・団体	48人・団体	55人・団体
	派遣回数	86回	88回	70回程度

【取組実績】

- 食育の推進を図るため、管理栄養士、医師、歯科衛生士、調理師、食生活改善推進員、農業生産者など「食」に関する知識を持つ方々を「富山県食育リーダー」として養成・登録し、関係機関、団体等が主催する食育講演等に派遣した（富山県栄養士会へ委託）。



食育リーダーによる食に関する研修会



【課題及び対応】

- ・ 様々な分野で活躍する食育リーダーのさらなる養成・登録を推進するとともに、食育リーダーの活用の周知を図り、効果的な派遣を行う。
- ・ 食育リーダーのさらなる資質向上を図るための研修会を引き続き実施する。
※ R2年度は新型コロナウイルス感染拡大防止対策を図りながら実施予定（一部中止）。
また、関係機関、団体等が主催する食育講座等の自粛により、派遣要請の減少が懸念される。

	H30実績	R1実績	R2計画
⑦県食育推進計画の普及・啓発	マスメディアを活用した幅広い周知 (県政番組等)	マスメディアを活用した幅広い周知 (県政番組等)	マスメディアを活用した幅広い周知 (県政番組等)

【取組実績】

- ・ 県政番組の「元気とやま みんなのクイズ」など、マスメディアを活用した普及・啓発を実施し、幅広い県民運動の展開を図った。
- ・ 県内各地域の食育関係団体の「健康メニュー」や「地産地消メニュー」、「とやまの家庭料理」など、地域で実践されているメニューについて、ホームページに掲載するほか、各種研修会やイベント等で普及啓発を図った。



県政番組「元気とやま みんなのクイズ」

【課題及び対応】

- ・ 引き続き、各種団体等が開催する会議・研修会、イベント等により食育の普及・啓発に努めるとともに、県政番組での情報提供などマスメディアを活用した幅広い県民運動の展開を目指す。

2 地産地消の推進や生産者と消費者の交流

	H30 実績	R1 実績	R2 計画
①直売所及びインショップにおける農産物販売額	3,555 百万円	3,527 百万円	(R3 年目標) 4,500 百万円以上

【取組実績】

- 消費者が生産者・産地の「顔が見える」県産品に触れることができる機会をより多く確保するため、県産品購入ポイント制度を実施するとともに、越中とやま食の王国ホームページなどにより、直売所やインショップでの農産物販売の PR 等を支援した。



	平成 14 年度	平成 21 年度	令和元年度
店舗数	75 店舗 →	165 店舗 →	189 店舗
販売金額	387 百万円 →	1,939 百万円 →	3,527 百万円

【課題及び対応】

- 現在、直売所及びインショップにおいて販売されている品目、量、時期は限られており、消費者ニーズに必ずしも十分応えきれていないことから、地場農産物の生産拡大支援など、生産者、流通関係者、小売業者等が一体となった取組みを推進する。

	H30 実績	R1 実績	R2 計画
②地産地消県民運動の推進			
ア)「とやまの旬」応援団の募集・登録	個人 4,179 名 企業・団体 1,252 団体	4,643 名 1,264 団体	5,000 名 (R3 目標) 1,500 団体 (R3 目標)
イ) 県産品購入ポイント制度	65 日間	65 日間	65 日間

【取組実績】

- 積極的に地産地消に取り組む企業や団体、個人を応援団として登録し、県民ぐるみの地産地消運動を展開した。
- 県民に県産品を優先的に選択してもらう動機付けとなるよう「県産品購入ポイント制度」を実施したところ、22,214 件 (H29 : 20,815 件、H30 : 25,091 件) の応募があった。
- 子どもと地域住民が一緒に行う農林漁業体験など、地元食材の魅力の再発見につなげる活動を支援した。

実施概要：令和元年 9 月 7 日～ 11 月 10 日

食品スーパーマーケット・百貨店、青果店、加工食品製造直売所など (327 店舗)
米・青果・鮮魚・精肉・加工食品などに貼り付けてある県産を示す「地産地消シール」や「価格ラベル」を 10 枚集めて応募



県産品に貼られる地産地消シール



サービスカウンターや売場での応募用紙・応募箱の設置



【課題及び対応】

- ・ 引き続き、地産地消「とやまの旬」応援団の登録を促進するとともに、応援団が提案する自主的な地産地消活動に対して支援する。
- ・ 「県産品購入ポイント制度」については、県産品へのシール貼付やチラシ・ポスターの充実、食料品スーパーや青果店に加え農産物直売所、農家レストラン、美味しい富山米の店など対象店舗の拡充に努めており、消費者へのさらなる浸透に努める。
- ・ 地域における食育を推進するため、引き続き農林漁業体験などの活動を支援する。

	H30 実績	R1 実績	R2 計画
③女性起業組織等への活動支援			
女性起業件数	185件 (39件)	186件 (39件)	196件 (45件)

【取組実績】

※括弧内は販売額 1,000 万円以上起業件数

- ・ 地場産品等の生産や加工に意欲的に取り組む農村女性起業組織のリーダーや起業化を志す農村女性を対象に、活動に必要なマーケティングや経営管理、加工技術などのスキルアップ講座を開催した。
- ・ また、新たな商品開発やサービス、販路開拓などの取組みを支援する農村女性チャレンジ事業や、起業活動の拡大に必要な機器や加工施設の整備等を支援する農村女性起業拡大支援事業、起業から企業への発展を目指す組織に対しては、商品構成の拡大、販売力の強化等を総合的に支援する農村女性先進モデル企業育成事業を実施した。
- ・ さらに、講座や事業を活用して開発された商品等、技術や販売方法等の課題解決に向け専門家を派遣するなどのフォローアップや起業家同士のネットワークを促進するための商品 PR イベント等を実施し、その結果、農村女性の起業活動の取組みは、着実に拡大している。



「越中とやま食の王国フェスタ 2019～秋の陣～」
女性起業の開発商品の利用等について PR



「畑パーティとやま」による消費者イベント
農村女性起業ネットワークによる PR 活動

- ・ 「越中とやま食の王国フェスタ 2019～秋の陣～」では、農村女性が開発した新商品を使った展示や調理法を紹介した。また、農村女性起業ネットワーク活動として、事業者の施設等を活用した消費者イベント「なやマルシェ」を開催するなど、SNS 等も利用し、女性の取組みの PR を行った。
- ・ 各農林振興センターにおいては、女性起業組織の商品開発や経営、食品表示、HACCP 等の指導、直売所等の品揃えの充実、学校給食への食材供給等の地産地消活動などを重点的に支援した。

【課題及び対応】

- ・ 地域農業を活性化するため、女性のパワーを活かした直売や農産加工等の意欲的な起業活動の拡大がますます重要になってきているなか、組織構成員の高齢化が進んでおり、次世代への円滑

な経営継承を促進する必要がある。

- このため、引き続き、女性起業組織等の育成を図るため、実践的な商品開発能力を養う「農村女性スキルアップ講座」の開催に加え、商品開発などの事業規模拡大や商品数と製造量の拡大など企業への発展をめざした取組み、さらには、働きやすい職場環境づくりなど起業活動の発展段階に応じて、総合的に支援する必要がある。
- また、農村女性起業の商品改良等に関する課題解決に向けたフォローアップとして、商品 PR イベントの開催により起業者同士のネットワーク「畑パーティとやま」の活動を促進する。

	H30実績	R1実績	R2計画
④「越中とやま食の王国フェスタ」の開催	2回	2回	2回

【取組実績】

- 『ひろげよう とやまの美味しい「わ」(和・輪・話)』をテーマに、令和元年10月26日(土)・27日(日)に「越中とやま食の王国フェスタ 2019～秋の陣～」を、令和2年2月1日(土)に「越中とやま食の王国フェスタ 2020～冬の陣～」を開催した。
- 「秋の陣」では、富山テクノホール(富山市)を会場に、富山の海・野・山の幸を一堂に集め、旬の県内野菜をマルシェスタイルで販売する「王国旬菜市場」、「とやま食の匠」による創作料理等の実演、オリジナル令和弁当の販売、富山の食文化や郷土料理を体験する「富山食楽工房」、富山米新品種「富富富」のPRなど多彩な催しを繰り広げ、訪れた約31,000人に対し、富山の食の魅力をアピールした。
- 「冬の陣」では、ロイヤルホテル富山砺波(砺波市)において、「越中料理と地酒を楽しむ会」を開催し、参加者219名に県産食材を使った越中料理と県内の酒蔵による地酒を堪能していただいた。



(秋の陣 富山テクノホール)



(冬の陣 「越中料理と地酒を楽しむ会」の料理)

【課題及び対応】

- 引き続き、「越中とやま食の王国フェスタ」の「秋の陣」及び「冬の陣」を開催し、「食のとやまブランド」の県内外への発信を図る。
「秋の陣」：収穫の恵みに感謝しつつ、生産活動等の成果や食の魅力を県内外に発信
「冬の陣」：「越中料理」等の魅力を県内外に発信
※ R2年度は新型コロナウイルス感染拡大防止対策を図りながら実施予定。

	H30実績	R1実績	R2計画
⑤子どもたちに対する魚食の普及			
・ 高校、短大生向けのセミナー開催	7回	5回	7回
・ 小学生向け副読本「ふるさと富山湾」配布	9,100部	9,200部	9,200部
・ 学校給食食材提供（県産魚学校給食普及事業）	28.7万食	23.8万食	30万食

【取組実績】

- ・ 県内の高校生・短大生（滑川高校、富山短大、伏木高校、新湊高校 計5回 165名）を対象に魚食の大切さを教える「さかなの栄養に関する知識の習得」及び「おさかなの捌き方の実習」のセミナーを開催した。
- ・ 富山湾で獲れる魚や水産業の仕組み及び漁場環境を保つための取組みについて理解を深めてもらうことを目的に「ふるさと富山湾～ふしぎの海のおさかな読本～」を9,200部作成し、社会科の副読本として活用してもらうため、県内小学校の5年生及び担当教諭に配布した。
- ・ 富山湾の美味しい魚を知ってもらい、富山湾産魚の消費拡大を図るため、富山県学校給食会等と連携し、県下小学校、中学校等にフクラギの切身等を給食食材として提供した。

【課題及び対応】

- ・ 県産魚を知り県産魚に親しんでもらうため、引き続きセミナーの開催や副読本の配布、学校給食への食材提供に取り組む。

3 魅力ある食文化の継承・創造

	H30実績	R1実績	R2計画
①「とやまの食」を普及する人材「とやま食の匠」の認定（推薦に基づき選考）	9個人・団体	6個人・団体	8個人・団体

【取組実績】

- ・食のとやまブランドを支える人材を育成するとともに、とやまの食の魅力を県内外に発信するため、「とやま食の匠」（特産の匠・伝承の匠・創作の匠の3部門）として新たに6個人・団体を認定した。

○R2年3月現在の認定数
 特産の匠： 68個人・団体
 伝承の匠： 53個人・団体
 創作の匠： 43個人
 計 164個人・団体

- ・学校、企業、団体等からの依頼に応じて、「とやま食の匠」を講師として派遣した（令和元年度の派遣実績 計30回）。

【課題及び対応】

- ・「越中とやま食の王国ホームページ」等で、「とやま食の匠」の活動を広く発信し、学校や企業、地域住民等への「とやま食の匠」の派遣促進を図る。

※ 新型コロナウイルス感染症の影響で、派遣要請の減少が懸念される。

		H30実績	R1実績	R2計画	
②三世代ふれあいクッキングセミナーの開催	開催回数	70回	72回	—	
	参加人数	2,621人	2,367人	—	
	〔内訳〕	子供	958人	978人	—
		親	505人	589人	—
祖父母		740人	800人	—	

【取組実績】

- ・食を通じたふれあいの輪を地域に広げ三世代の交流を推進する場を提供するとともに、日頃の食生活を振り返るきっかけとなる「三世代ふれあいクッキングセミナー」を開催したところ、2,367人の参加があり、各世代を通じて参加者の好評を得た（富山県食生活改善推進連絡協議会へ委託）。



【課題及び対応】

- ・三世代のふれあいを通じて食べものを大切にする心などを伝えるとともに、各世代が健康づくりのための食事について学び、幼い頃から望ましい生活習慣を身につけられるよう、セミナーの一層の推進を図る。

※ R2年度は新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止

	H30実績	R1実績	R2計画
③越中料理のブランド化の推進	「越中料理」のPR	「越中料理」のPR	「越中料理」のPR

【取組実績】

- ・令和2年2月1日にロイヤルホテル富山砺波（砺波市）において、「越中とやま食の王国フェスタ 2020～冬の陣～ 越中料理と地酒を楽しむ会」を開催し、参加した219名に、県産食材を使った越中料理と県内の酒蔵による地酒を堪能してもらった。

【課題及び対応】

- ・「越中とやま食の王国フェスタ」や「越中とやま食の王国」ホームページ等で、越中料理のデータベース化や普及・PRを図る。

	H30実績	R1実績	R2計画
④富山県ふるさと認証食品（Eマーク食品）の認証 （申請に基づき審査）	・年2回 ・新規認証6	・年2回 ・新規認証15	・年2回募集

【取組実績】

- ・年2回、新規募集を行い審査及び認証している。
- ・各種イベントやホームページ等で制度の周知を図った。

<p>< Eマーク商品の認証要件 ></p> <div style="display: flex; align-items: center; justify-content: center;">  <div style="margin-left: 20px;"> <ul style="list-style-type: none"> ・主要原材料は富山県産 100%であること ・製造工場等が富山県内にあること ・食品としての品質が優れていること </div> </div> <div style="border: 1px dotted black; padding: 5px; margin-top: 10px; text-align: center;"> <p>< R2.3月現在の累計認証数 > 39 品目 348 商品</p> </div>

【課題及び対応】

- ・地産地消の推進や6次産業化などの新たな取組みにより、商品開発が活性化する中で新規に募集を図っていく。

	H30 実績	R1 実績	R2 計画
⑤新たな「とやま名物」商品開発			
6次産業化とやまの魅力発信事業	6件	6件	6件
「富のおもちかえり」商品開発	3商品	2商品	5商品

【取組実績】

○6次産業化とやまの魅力発信事業

- ・農林漁業者と中小企業者が連携して行う新商品・新サービスの開発や販路開拓を支援し、令和元年度は、地元産の農産物を使用した特産品など3件の商品開発・販路開拓の取組みが行われた。
- ・農林漁業者が自ら行う新商品・新サービスの開発や販路開拓（6次産業化）を行う県単独の支援制度により、6件の新規取組みを支援した。

○令和元年度開発商品



果実シャーベット



五箇山ぼべら最中



黒ニンニク・ガーリックオイル

○「富のおもちかえり」商品開発

- ・富山を訪れた方が思わず手にとり、持ち帰りたくなるような県産農林水産品を使った魅力あるお土産品「富のおもちかえり」21商品について、県内外でPR販売キャンペーンを実施した。また、商品のブラッシュアップを支援し、令和元年度に常温の2商品を新たに追加した。

○富のおもちかえり商品



(令和元年度追加商品)



新商品「ぶり燻製」
「さくらます燻製」

「富のおもちかえり」商品

押し寿司、ます寿し、オイル漬かまぼこ、ローストビーフ
黒とろろ昆布ふりかけ、
魚介や果実のジャーキー、スイーツ

【課題及び対応】

- ・6次産業化商品については、とやま6次産業化セミナーやとやま6次産業化サポートセンターなどにより商品の魅力発信等を支援する。
- ・「富のおもちかえり」商品については、県内外でのPR活動を展開するとともに、日持ちしやすい常温商品のラインナップの拡充、セット商品の開発等に取り組む。

Ⅱ ライフステージに応じた健康増進につながる食育の推進

1 子どもに対する食育の推進

	H30実績	R1実績	R2計画
①毎日しっかり朝ごはん事業の推進 〔 県内全小・中・高校生及び その保護者を対象 〕	朝食摂取への意識の高揚と実践化の普及啓発を図った。	朝食摂取と栄養バランスの意識高揚と実践化の普及啓発を継続して図った。	朝食摂取と栄養バランスの意識高揚と実践化について粘り強く普及啓発を図る。

【取組実績】

- 令和元年度は、朝食の役割や栄養バランスのとれた朝食摂取の習慣を身に付けることの大切さを啓発するため、「毎日しっかり朝ごはん！」のキャッチフレーズと、栄養バランスのよい朝食内容やご飯を食べている「きときと君」（元気とやまスコット）のイラストを印刷した食育ランチマットを作成して、県内の小・特別支援学校の全小学1年生に配布し、食に関する指導の推進に努めた。年度末には、「学校給食とやまの日」や「全国学校給食週間」等を意識できるように、食育啓発カレンダー（R2.4～R3.3）を県内全小・中・高・特別支援学校に配布した。また、毎月19日の食育の日などを通じ、学校・家庭・地域が連携を図り、食育に関する取組を推進した。

【課題及び対応】

- 栄養バランスのとれた朝食を摂取する児童生徒が増加するよう学校に啓発するなど、事業内容を工夫し、継続実施する。



食育ランチマットを用いた食育啓発運動（小学校）



食育啓発カレンダーの上部（朝食摂取と体力との関係）

	H30実績	R1実績	R2計画
②とやま子育て応援団制度の推進 ・ 応援団登録店舗数	2,351 店舗	2,376 店舗	2,400 店舗

【取組実績】

- 子育て家庭のふれあいやコミュニケーションを深める機会を提供する「とやま子育て応援団」を推進し、「家族そろっての食事」の普及・啓発を図った。

〔実施時期：主に、毎月の「とやまふれあいウィーク」（「とやま県民家庭の日」（毎月第3日曜日）から始まる1週間）の期間中〕

【課題及び対応】

- とやま子育て応援団のさらなる利用促進を図るため、PRを強化する。

	H30実績	R1実績	R2計画
③家庭教育かわら版の刊行 (食育に関する記事を掲載)	5万部配布	5万部配布	5万部配布

【取組実績】

- ・家庭教育かわら版は、幼稚園、保育所、認定こども園の年少児から小学校1・2年の子どもの保護者に配布(5万部)している。



2019年号—こころを育てる会話のちから—

【課題及び対応】

- ・食育の実践に向け、家庭教育かわら版を活用した食に関する関心の喚起と正しい知識の普及を引き続き実施する。

	H30実績	R1実績	R2計画
④学校給食における地場産品の活用促進 <ul style="list-style-type: none"> ・市町村推進組織を中心とした推進体制の整備及び県内他市町村産食材の活用促進等に対する支援 ・青果市場によるコーディネート体制の整備 	活用実績 461トン (115品目) 特別給食※ 266校	活用実績 534トン (103品目) 特別給食※ 263校	活用計画(R3) 700トン以上 (115品目) 特別給食※ 266校

※特別給食：地元の農産物や県産食材を積極的に取り入れた献立の提供にあわせ、生産者を招いた給食会や、栄養教諭等による食材の紹介を行うなど、児童・生徒に地元食材への愛着を深めてもらうための取組み

【取組実績】

- ・青果市場を中心としたコーディネート体制を整備し、産地情報や規格ニーズ等の情報共有を図るなど、学校給食での他市町村産を含めた県産食材の広域的活用拡大を促進するための取組みを行った。
- ・児童、生徒への地元の食材に対する知識、理解を深めてもらうための普及啓発を行った。
- ・また、米の多様な利用について理解を深めてもらうため、学校給食に対する米粉パンの供給に支援した。県下の全小・中学校では、県産コシヒカリによる米飯給食を週平均3.7回実施した。



「県産食材活用拡大プロジェクト事業」を活用した協議会運営・特別給食・生産者との交流活動

【課題及び対応】

- ・学校給食への県産食材の活用拡大に向けた体制整備などに引き続き取り組む。
- ・R2年度は、新型コロナウイルス感染拡大の影響を受けた県産牛肉や水産物を県内小中学校等の学校給食に提供するとともに、県産食材への理解促進と望ましい食習慣づくりに向けた食育教材を配布する。

	H30 実績	R1 実績	R2 計画
⑤栄養教諭を中核とした「望ましい食習慣づくり」の推進	栄養教諭配置数 37人	栄養教諭配置数 42人	栄養教諭配置数 52人

【取組実績】

- ・令和元年度は、栄養教諭が配置されている県内の各学校において、教科や特別活動における食に関する指導の充実や、地域・家庭と連携し、地産地消の啓発や食育の推進を行った。
- ・栄養教諭の配置校では、各校の児童生徒の実態や発達の段階に合わせて、計画的・継続的に食に関する指導を実施している。栄養教諭による保護者向けの講演や授業参観での親子学習、食育だよりの発行、親子料理教室の開催等により、食育の推進についてPTAや地域への啓発を図った。
- ・食材を選ぶことの大切さや感謝の心を育むことができるよう、多くの学校で地場産の食材を使った献立提供や生産者との交流活動が行われた。



栄養教諭による授業風景

○「学校給食とやまの日」の取組（射水市）

- ・「富山県食育推進月間」に合わせて11月中の一日または数日を「学校給食とやまの日」とし、地元の農作物や県内食材を積極的に使用した学校給食を実施している。
- ・県内の各小中学校では、市町村、学校給食関係者が連携し、地域の食材を多く取り入れた、特色ある献立を工夫している。
- ・射水市の「学校給食とやまの日」には、呉西6市の統一献立として、ハトムギ入りしそご飯、ゴーセイなメンチカツ、枝豆サラダ、氷見うどん汁、6市ミックスゼリーが提供された。市内の小学校のランチルームでは、給食委員会による6市の食材紹介が行われ、児童が地場産物や地産地消のよさについて理解を深める貴重な機会となった。



射水市の献立



○小学生向けの「農」と「食」を紹介する副読本の活用

- ・次の世代を担う子供たちが自然の恩恵や食に係わる人々の活動、さらに、ふるさとの農産物のよさを理解するとともに、日本人の伝統的な食文化を理解・継承していけるように、富山県の農業と食（食文化、郷土料理等）を紹介する小学生向けの副読本を活用して、授業を実施している。
- ・栄養教諭研修会、学校給食指導者研修会等で、副読本の紹介と活用の啓発を図っている。



副読本を活用した授業

【課題及び対応】

- ・令和2年4月には、栄養教諭45名が県内全市町村に配置（前年度より3名増）されており、11月にはさらに数名増員予定で、家庭や地域と連携しながら、一層の食育推進に努める。
- ・栄養教諭の配置校では、農林水産業や伝統料理など地域の食文化に対する児童・生徒の理解を深めるため、地域の食文化の特徴を活かした「食材の生産段階から望ましい食生活の実践」までの一貫した学習を地域の農林水産業者や食育関係者などと連携して推進する。

2 若者世代に対する食育の推進

		H30実績	R1実績	R2計画
①若者世代に対する食育講座と調理講習会の開催	開催回数	7回	6回	1回
	参加人数	181人	115人	30人

【取組実績】

- ・ 朝食の欠食、外食やインスタント食品への依存、女性のダイエット志向など、特に子育て世代や若い世代を対象に郷土料理や行事食等の地域食文化の保護・継承や富山型食生活の実践を図るため、食育講座や調理体験会を開催した。
- ・ 若者世代が食育を意識し、考えるきっかけづくりとするため、「とやま食育アプリ・アイデアコンテスト」を開催し、優秀作品を県HP「とやま食育ひろば」で紹介した（応募数 27 点）。



若者世代を対象とした調理体験と完成した料理



コンテスト募集チラシ

【課題及び対応】

- ・ 中・高校生、大学生をはじめ若い会社員、子育て世代の親など若者世代に対して食育を普及・啓発するため、富山版食事バランスガイドや栄養成分表示を活用した講習会を開催するとともに、イベントに講師を派遣し、指導相談等を行う。
 - ・ 若者が取り組む食育調理体験やセミナーなどの食育活動に支援を行う。
- ※ R2年度は新型コロナウイルス感染拡大防止対策を図りながら実施予定（一部中止）。

	H30実績	R1実績	R2計画
②食生活改善チェックシートの作成・活用の	食育リーダー等による普及、イベントでの活用	食育リーダー等による普及、イベントでの活用	食育リーダー等による普及、イベントでの活用

【取組実績】

- ・ 食事バランスガイドを活用した食事内容の点検や食生活のポイントを確認できる食生活改善チェックシートを活用、食育リーダー等による普及、「越中とやま食の王国フェスタ 2019～秋の陣～」等のイベントにより食育の実践の普及に努めた。

【課題及び対応】

- ・ 対象者に応じたチェックシートを活用し、地域の講座やイベント等で普及啓発に努める。



食生活改善チェックシート

	H30実績	R1実績	R2計画
③「野菜をもう一皿！食べようキャンペーン」の実施（協力店舗数）	623店	668店	啓発促進

【取組実績】

- ・ 野菜の日（8月31日）に合わせて、野菜を販売している小売店（スーパー、コンビニ、八百屋等）を対象に、家庭での野菜摂取を促進するためのキャンペーンを実施した。
- ・ 令和元年度は、県が主催するウォーキングイベントの参加者に対して、県産野菜のセットを配布し、ウォーキングイベント参加へのインセンティブとして相乗効果を図った。

【課題及び対応】

- ・ 引き続き、協力店を募集するとともに、PR資料の提供による協力店の主体的な取組みを支援することで、県民の野菜摂取の意識の向上を図る。



店舗でのキャンペーン実施

3 働き盛り世代・高齢者に対する食育の推進

	H30実績	R1実績	R2計画
① バランスアップ健康プロジェクトの実施	民間産業との連携 〔普及啓発 18回〕 〔情報発信 25回〕	民間産業との連携 〔普及啓発 16回〕 〔情報発信 25回〕	民間産業との連携

【取組実績】

- ・ 民間産業と連携したバランスアップ健康プロジェクト事業を実施し、社員食堂等と連携したメニュー改善の取組みや普及啓発等を行った。

【課題及び対応】

- ・ 民間事業所と連携し、メニュー改善に向けた取組みをさらに推進、拡大する。
- ・ 健康寿命延伸のため、地域や職域と連携した健康づくりの強化、県民一人ひとりに届く「健康づくり」の展開と気運の醸成、若い世代からの発症予防・重症化予防が重要であり、県民を取り巻く家庭や職場、地域、学校などが一体となって、総ぐるみで取り組む。

	H30実績	R1実績	R2計画
② 「健康寿命日本一応援店」の登録	206 店舗	225 店舗	登録推進

【取組実績】

- ・ 野菜たっぷり、減塩、シニア向けのメニューを提供する飲食店等を「健康寿命日本一応援店」として登録し、県民への周知を図った。

【課題及び対応】

- ・ 令和2年度は、新たに中食部門を追加し、引き続き県内飲食店等に「健康寿命日本一応援店」の登録を働きかけ、登録の拡大を図るとともに、県民への周知に努める。



健康寿命日本一
応援店ステッカー

		H30実績	R1実績	R2計画
③ 元気とやま食生活改善 クッキングの開催	開催回数	31回	31回	元気とやまわくわく クッキングの実施
	参加人数	928人	930人	

【取組実績】

- ・ 健康寿命延伸の最も基本となる、望ましい生活習慣の確立を推進するため、富山県健康増進計画（第2次）に基づき、食生活改善のポイントや栄養バランスのよい料理を普及する「元気とやまわくわくクッキング」を実施した（富山県食生活改善推進連絡協議会へ委託）。

【課題及び対応】

- ・ 引き続き主食・主菜・副菜のそろった栄養バランスのよい食事の普及啓発に努める。
- ※ R2年度は、新型コロナウイルス感染拡大防止対策を徹底し一部内容を変更して実施。

Ⅲ 食の安全・安心や食の循環を意識した食育の推進

1 食の安全確保の推進

	H30 実績	R1 実績	R2 計画
① 食品安全に関するイベントへの参加人数	3,032 人	3,177 人	4,300 人

【取組実績】

- ・ 食品安全に関する情報をわかりやすく解説するとともに、県民との意見交換を行う食品安全フォーラム等を開催した。

「食品安全フォーラム in とやま ～食品安全 最近の話題から～」

(令和元年 7 月 31 日開催、富山県民共生センター サンフォルテ、参加者 138 名)

- ・ 講演 1 「畜産物の輸出入検疫」～知ろう動物検疫所の水際対策～
講師：農林水産省動物検疫所 中部空港支所
統括検疫管理官 勢古 貴九秀 氏
- ・ 講演 2 「アニサキスを含む食物アレルギー」
講師：富山大学医学部 公衆衛生学講座
准教授 浜崎 景 氏



- ・ 県の取組みや食品安全に関する知識を県民に正しく理解してもらうため、多くの来場者が見込める「越中とやま食の王国フェスタ 2019～秋の陣～」に食品安全に関するブースを出展した。

「食の王国フェスタ」に食品安全関連ブースの出展

(令和元年 10 月 26、27 日開催、テクノホール、参加者約 2,500 名)

- ・ パネル展示
- ・ 啓発資料の設置、配布
- ・ アンケートの実施 ほか



- ・ CSF（豚熱）に関する正確な情報や安全な豚肉を生産するための生産者や行政の取組みを消費者に紹介するほか、意見交換を行うことで消費者の不安を解消し、風評被害を防ぐためイベントを開催するとともに、「とやまポーク」の試食を来場者に提供し、安全な県産豚肉を PR した。

○ 「食の王国フェスタ」での安全性 PR

(令和元年 10 月 26、27 日開催、テクノホール、試食提供者数 425 名)

- ・ とやまポークの試食提供
- ・ 食肉の安全性に関するパネル展示



○ 「知ろう！学ぼう！『とやまポーク』トークセッション」の開催

(令和元年 12 月 20 日開催、富山県民共生センター サンフォルテ、参加者 72 名)

- ・ 講演「CSFの発生と対策について」
講師：麻布大学獣医学部 教授 長井 誠 氏
- ・ 県産豚肉の安全性についての意見交換会
- ・ とやまポーク試食会
- ・ 食肉の安全性に関するパネル展示



【課題及び対応】

- ・ 食品安全フォーラムの開催及びイベントへの食品安全関連ブースの出展等により、リスクコミュニケーションの強化を図る。

	H30 実績	R1 実績	R2 計画
②とやま食の安全・安心情報ホームページの運営 (アクセス年間件数)	17,702 件	24,986 件	—

【取組実績】

- ・ 県内の食中毒発生や食品安全フォーラム等の開催内容など、適時的確な情報提供に努めるとともに、より見やすく分かりやすいホームページとするため、関係情報の整理等を行った。

【課題及び対応】

- ・ 適時的確な情報提供、内容の更新に努め、必要な情報がよりスムーズに得られるよう工夫するとともに、ホームページの認知度向上に努める。

	H30 実績	R1 実績	R2 計画
③食品表示講習会の開催	4 回	4 回	4 回

【取組実績】

- ・ 関係団体へのパンフレット等の配布やホームページで情報提供を行うとともに、食品関連事業者を対象とした食品表示講習会（4 回）の開催や業界団体、農産物直売所等を対象とした研修会への講師派遣により、食品表示法の内容など、適正な食品表示の周知に努めた。



食品表示講習会の様子

【課題及び対応】

- ・ 食品表示に関し、関係団体に対し情報提供を行うとともに、講習会や研修会を通じて制度の周知に努める。

	H30 実績	R1 実績	R2 計画
④食品表示ウォッチャー調査店舗数	1,049 店舗	1,133 店舗	1,320 店舗
⑤食品表示ウォッチャーの食品表示実態調査等における 適正な店舗の割合	95.1%	96.7%	100%

【取組実績】

- ・ 県内小売店における食品表示の実態を把握するため、消費者からなる「食品表示ウォッチャー」（30 名を委嘱）を配置し、ウォッチャーに対する研修会を 4 回実施するとともに、日常の買い物の中で小売店の食品表示の実態を調査した。
- ・ また、不適正な表示が認められた店舗については、担当職員が立入調査を行い、適正な表示を指導した。

【課題及び対応】

- ・ 食品表示ウォッチャーによる調査を通じた監視・指導体制の強化に努める。

2 食の循環や環境を意識した食育の推進

	H30 実績	R1 実績	R2 計画
①食品ロス・食品廃棄物削減推進のための啓発イベント等の開催	1回	3回	1回

【取組実績】

- ・ 商慣習見直しの取組みの加速化を図るため、事業者や消費者が食品ロス削減のための商慣習見直しについて考える機会を創出するため、フォーラムやイベントを開催し、意識啓発を行った。

<開催日・参加人数等>

○商慣習見直しフォーラム

日時 令和元年7月2日(火) 15:00~17:00
 場所 パレブラン高志会館
 参加者 約180名
 内容 基調講演、パネルディスカッション



○商慣習見直しに向けた消費者向け啓発イベント

第1回

日時 令和元年8月3日(土) 13:30~15:30
 場所 イオンモール高岡
 参加者 約150名
 内容 食品ロス削減に取り組む団体の表彰、啓発グッズ配布、トークイベント、クイズ大会、マジックショー等



第2回

日時 令和元年10月26日(土)、27日(日)
 場所 富山産業展示館(テクノホール)
 内容 食の王国フェスタへのブース出展(商慣習見直しに関するパネル展示等)



【課題及び対応】

- ・ 食品ロス・食品廃棄物削減推進県民会議のもと、県民に対する幅広い周知・啓発を行い全県的な取組みを推進する。

	H30実績	R1実績	R2計画
②食品ロス削減のための普及啓発	啓発資材の制作	啓発資材の制作	啓発資材の活用

【取組実績】

- ・ 食品流通段階でのいわゆる「1/3ルール」などの商慣習は、食品ロス発生の大きな要因とされている。こうした商慣習の見直しのためには、事業者の取組みの促進とともに消費者意識の改善が必要であることから、消費者の過剰な鮮度志向の改善やある程度の欠品を許容する考えなどを啓発するためのCMを制作・放映し、食品ロス削減の理解と関心を深めた。

○食品ロス削減のための啓発用テレビCMの制作・放映

＜CMの内容＞15秒×3種

テーマ：①過剰な鮮度志向の見直し、②消費期限と賞味期限の違い、③ある程度の欠品の許容

＜放送期間＞令和元年10月30日～令和2年3月

【課題及び対応】

- ・ 制作したCM動画をイベントやWEBサイトにおいて活用し、消費者の食品ロス削減のための商慣習の見直しに対する理解を深め、食品ロスの削減を推進する。

	H30実績	R1実績	R2計画
③「食べきり3015運動」協力店及び「食べきりサイズメニュー」提供店の募集・登録			
「食べきり3015運動」協力店	67店	143店	293店
「食べきりサイズメニュー」提供店	59店	109店	259店

【取組実績】

＜「食べきり3015運動」協力店の募集・登録＞

- ・ 3015運動をPRする三角柱等を制作し宴会の席等に配置してもらうとともに、幹事向けチラシにより3015運動の協力依頼をしてもらうことで、宴会参加者の3015運動の実践を促進した。
- ・ また、訪日外国人旅行者等を広く受け入れる県内のホテルや旅館、外食産業において外国人向けに本県の取組みを広く紹介する啓発資材を製作し、協力を促した。



（制作物：三角柱POP、ポスター、チラシ
配布先：県内ホテル・旅館、居酒屋、仕出し屋等）

＜「食べきりサイズメニュー」導入店の募集・登録＞

- ・ 飲食店での食べきりを推進するため、小盛りメニューの導入を飲食店に働きかけ、全県的に小盛りメニューの導入促進を図った。

（制作物：テント型POP、ポスター、チラシ
配布先：レストラン等県内飲食店）

【課題及び対応】

- ・ 県内飲食店等に、「食べきり3015運動」協力店及び「食べきりサイズメニュー」提供店の登録を働きかけ、登録の拡大を図るとともに、県民への周知に努める。

	H30実績	R1実績	R2計画
④「とやま環境チャレンジ10事業」において食品ロス削減に取り組んだ児童の数	64校 3,503人	69校 3,022人	71校 3,110人

【取組実績】

- ・ 10歳の児童が家族とともに10項目の地球温暖化対策に取り組む「とやま環境チャレンジ10事業」において、平成30年度より食品ロスの削減を取組項目に追加するなど、内容を拡充した「富山環境未来チャレンジ事業」を実施した。
- ・ 家庭科「消費生活・環境」で活用できる副読本を配布した。
- ・ 食品ロスの削減効果をより深く実感する機会を提供するため、家庭での食品ロス発生量を記録する「モニター調査」を実施した。また、県内の全小学生に配布されている広報誌で結果を紹介した。

〈モニター世帯数〉611世帯（約2,000人）

〈「使いきり3015*」の削減効果〉

約3.9kg/年・人（4人家族の場合、年間約15,000円の節約効果）

※毎月30日と15日に冷蔵庫をチェックして、期限が近い食品などを使いきる取組み。

- ・ 小学生が家族と一緒に作った、手付かず食品を使った料理の写真を募集し、とやま環境フェアや広報誌で紹介した（応募数133名）。



モニター調査結果の紹介



料理の例



とやま環境フェアでのパネル展示

【課題及び対応】

- ・ 本県の家庭における食品ロスの課題である「手付かず食品」の削減に向けて、フードドライブ※1の実施やサルベージ・パーティ※2の開催を支援することにより、家庭における取組みの一層の促進を図る。

※1 家庭で余っている食品を集め、福祉団体・施設などへ寄付する活動

※2 家庭で余っている食品を持ち寄って料理するイベント